

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護・管理学科 (3年制) トータルペットケア専攻) 令和4年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物の世話管理実習Ⅰ	動物飼育管理を通じ生体の特徴、衛生管理を学ぶ	1通	31			○	○		○		
○			グルーミング理論Ⅰ	犬種ごとのカット方法と犬種標準を学ぶ	1通	28	○			○		○		○
○			グルーミング実習Ⅰ	犬種ごとの扱いを学び、カット技術をマスターする	1通	251			○	○		○		
○			ビジネスマナーⅠ	社会人マナーやビジネス系検定取得を目指し実践的に学ぶ	1前	24		○		○		○		
○			志学Ⅰ・ヒューマンスキル	人間性・職業教育を通して、社会人としてのより良い生き方主体的に考える	1通	36	○			○		○		
○			愛玩動物総論	愛玩検定取得に向けての試験体対策	1通	50	○			○		○		
○			動物形態機能学	小動物の体の構造と機能を理解する	1通	26	○			○		○		
○			動物衛生管理学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し社会一般への疾病予防を目的とする	1通	27	○			○		○		
○			動物臨床検査学	検査の目的を解剖学的・生理学的知識とともに身につける	1通	22	○			○		○		
○			ペット概論	ペット飼養実態・ペット関連産業の概要・市場規模の知識を得て適正飼養を考える	1通	27	○			○		○		
○			動物臨床栄養学	犬猫に必要な栄養素・ライフステージ、ペットフードと療法食や給餌法を学ぶ	1通	18	○			○		○		
○			動物看護実習Ⅰ	動物看護の基礎知識と手技の習得を目標とする	1通	36			○	○		○		
○			パソコン実習Ⅰ	ワープロ、エクセル3級の取得を目指す	1後	22			○	○			○	
○			ドッグコミュニケーションⅠ	クリッカー用品を活用したトレーニング実習	1通	120			○	○		○		○
○			就職実務Ⅰ	基礎学の問題演習を通して、社会人として必要な知識を身に付ける	1通	4	○			○		○		
○			動物総合臨床実習Ⅰ	動物関連企業で実践を学び、企業内業務の補助を行う	1後	40			○		○		○	○
○			特別授業	学生一人一人と向き合い、クラスのモチベーション向上を目指す	1通	123			○	○		○		
○			動物の世話管理実習Ⅱ	動物飼育管理を通じ生体の特徴、衛生管理の学びを1年生へ指導する	2前	4			○	○		○		
○			グルーミング理論Ⅱ	犬種ごとの標準カット方法を学ぶ	2通	41	○			○		○		
○			グルーミング実習Ⅱ	犬種ごとの安全管理、犬の扱いを学び、カット技術を修得する	2通	275				○	○		○	○
○			動物外科看護学実習	手術についての一連の手順を理解し、看護援助の基本を学ぶ	2通	26			○	○		○		
○			動物臨床検査実習	検体検査・生体検査に関する意義・基本的手技を身につける	2通	46			○	○		○		
○			ワーキングドッグ	社会におけるワーキングドッグの役割について理解を深める	2前	12	○			○		○		
○			犬種研究	犬種の歴史と形態・特性について理解を深める	2後	11	○			○		○		
○			ドッグトレーニング	クリッカートレーニングの復習や、試験対策等、必要項目の強化トレーニングを行う	2通	28		○		○		○		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①成績評価すべてC評価以上 ②出席状況 年間90%以上 【履修評価】 評価は原則として科目ごとにその前期・後期終了時で其々の評価をする。 評価は、平日の授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、期末試験等によって行い、原則として絶対評価とする。 【学業成績】 ①成績評価は原則として科目毎に前期・後期終了時に確認テスト・課題提出・科目試験・検定試験・などによって絶対評価で行い、授業態度や出席状況も加味したうえで評価する。 ②成績評価は点数によりA・B・C・Dの4段階をもってこれを表し、Dは不合格とする。ただし、D評価の学生には追試や課題提出を行い学習の機会を与える。 【卒業】 本校に在学し、3年間の出席時間が2,400時間以上履修し、かつ、卒業基準検定を取得し成績評価がすべてC以上の者に卒業証書を授与する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	26週
(留意事項) 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。		